

湘南医療大学

ティーチングポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 保健医療学部 看護学科
名 前 坂口 達哉
作成日 2023年9月10日

1. 教育の責任

私が本学にて担当している科目は多くあるが、それぞれで役割がやや異なる。もちろん、講義や演習を担当する部分もあるが、その他には講義や演習の運営や補助、前後の準備、評価、試験の準備・実施など多岐にわたる。担当している科目については以下の通りである。

新カリキュラム	成人看護学、成人看護方法論Ⅰ、ヘルスアセスメント学Ⅱ、ナーシングスキルⅡ、ナーシングプロセスⅠ、ナーシングプロセスⅡ、プロフェッショナル論Ⅰ、病態学Ⅱ、現代医療論、チーム医療論Ⅰ、看護基盤実習Ⅰ・Ⅱ
旧カリキュラム	成人看護方法論Ⅲ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、統合実習・看護研究Ⅱ

当大学はカリキュラム変更の過渡期であり、新旧それぞれで必要な業務があるため、他教員との連携を図り、上記役割を遂行している。特に、新カリキュラムの科目においては、それまでに積み上げたものは殆どなく、0から新しい授業内容を構築しており、自身の教員人生に於いても貴重な経験をさせていただいている。

教育の責任という部分においては、まず学生の主体性を高めることが根幹にあると考えている。そのために、学生が能動的に学修できるような授業プログラムを上司と共に構築することが昨今の使命となっている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の教育の理念は、学生に看護のあらゆる分野の中で、彼ら・彼女らが興味を引くところを見出すことができるようにしていくことである。

本大学に入学する学生は、看護や理学・作業療法といった単一の専門職種を目指していることが特徴であり、一般大学と比較し進路がある程度決まっているという部分が良い部分でもあり、難しい部分でもある。看護師になる、という一定のモチベーションがあるため、講義内容やカリキュラムに対しても違和感がなく受け入れて学修ができる。その反面、敷かれたレールを進むばかりで、主体的な学修行動が見られなくなる、という2面性をはらんでいると考える。そのため、学生がさまざまな形がある「看護学」の中で自分なりに、生涯学んでいくことができそうである、と感ずることができる部分を見出すことは、学修のモチベーションを向上させ、主体的な学修行動を促進させることができるため、これを目的とした教育を実施していくことを意識している。

2) 理念をもつに至った背景

上記理念を持つに至った背景は、主体性のない学生が多いことにある。私は新キャンパスで2年間学生の様子を見ているが、すべての学生が看護学に興味を抱いて入学し、学ぼうとしている学生だけであるとは感じることはできない。学生の姿勢として、看護師免許が取ればよく、看護学を追及、または自分の興味のある分野を探そうという姿勢があるかどうかは客観的には判らないのである。これはもちろん、教員として努力が不足している部分があるのかもしれないが、明らかにそのような姿勢の学生が増えている、と他教員も感じているようである。このような学生は授業中の態度も悪く、遅刻や欠席も多い。この現実には、少なからず

いる志の高い学生にもマイナスな影響を与えていくことは、グループワークなどの集団で学習を進めることが多い看護学の教育現場において、想像に難くない。こうなると全体的な学生の質は年々低下してゆき、新たに入学した学生にも悪影響を及ぼしかねない。

そのため、教員としての理念として、学生の主体性を育むような鍵となるものを見出すことを掲げている。

3. 教育の方法・戦略

教育の方法として、グループワーク、講義、演習をうまく使い分け、それぞれで狙う教育効果を理解し、目標を立てていくことを重要視している。具体的な方法は以下に示していく。

・グループワークの実施

グループワークでは、ある話題について学生に討論させるが、何を目的としているのかをしっかりと学生に認識させることが重要である。

例えば、チーム医療についてグループワークを始めたとする。しかし、馴染みのない話題でのグループワークでは活発な議論は行われたい。そこで、最初は「チーム医療において看護師がどのような役割を持って、実際の臨床現場ではどのような活動が実践されているのか」といった具体的なゴールを与え、そのゴールに至るまでに辿るべきプロセスを提示する。プロセスとは何を調べれば良いのか、どのようなツールを使って調べれば良いのか、などがそれにあたる。昨今の学生は常に物事の「説明書」を求めており、慣れないことをさせる上では、最初はゴールに辿り着くための「説明書」を与える必要があるのだ。しかしながら、常にそうしては主体的な学修行動にはつながらない。そこで、グループワークを重ねるごとに、その「説明書」の量を減らしていく。そうすることで、自然とどのように進めていくべきか、物事の答えに辿り着くにはどのように考えていくべきなのか、という能力を獲得させるのだ。

また、グループワークにはある程度のベースとなる知識が必要である。無からは何も生まれない。そのため、的確な事前学習の内容を学生に課すことも重要である。実際に、新カリキュラムであるヘルスアセスメント学では授業が始まる長期休暇の間に課題を提示し、その成果を授業で使用できるような仕組みをとっている。

・講義について

講義については、学生がアウトプットすることができる仕組みを多く取り入れることを念頭において組み立てている。具体的には、第一に冒頭で復習や導入を Google Forms を使用して実施することである。これは QR コードをスライドで表示し、その場で学生に Google Forms 上の導入としてのアンケートや前回の講義の復習としてのミニテストを実施することや回答結果の全体傾向を共有することで、授業への参加意欲を向上させる狙いがある。第二に、講義中には重要な部分を資料で穴埋めにし、学生に記入させる、第三には授業終了時にその講義内容の復習としてのミニテストを実施することである。

・演習

演習は具体的な対象の状況を再現すること、また適度な緊張感のある空間で実施することを念頭に置き実施している。

4. 学習成果

本年より、先に説明した講義時の最後に実施するミニテストの際に、同時に講義への意見やリアクションを書かせるような設問を追加している。以下は、本年度に自身が実施した講義の学生からのコメントの引用とそれに関する分析を示す。

・「授業内容わかりやすかったです」「心原性ショックの仕組みがよくわかっておもしろかった」「授業中眠くならずに聞けた。内容が分かりやすかった」「授業の大事なところとか画像などで説明してくださるのでとてもわかりやすいし何回も繰り返すと頭に入るのでとてもいい授業だなと思いました!小テストでさらに確認ができるのでとても良かったです!」

全体的な感想として、上記と同様なポジティブなコメントが見られた。上記のようなアウトプットを重要視するような注意点に加え、スライドに視覚に訴えるような画像や動画などを多く取り入れ、また、重要な部分を繰り返し説明することが、これらの感想に繋がったと考える。

・「先生がスライドに書き込みすぎるとよく分からなくなってしまう部分がありました。」「先生のメモが少し早くて追いつけませんでした。」

授業は基本的にはパワーポイントを使用して進行しているが、細かい部分の説明など、スライドに書き込んで説明をした方が良い部分などがあるため、タブレットやスタイラスペン等を併用した上で、スライド上で書き込みを行なっている。この点については学生の理解を深めている部分もあるものの、量が多すぎると上記のような意見が出てくるため注意が必要である。

・「実際の患者さんのことなどの話が聞けて、面白かった。」

講義には実際の臨床の情報も組み込むことを意識している。看護は臨床あつてもであり、自身の経験からも実習時にそれまでに座学で学んだと繋がっていないケースが散見されていたためである。臨床の場面と繋げて教授することは、これらの問題を解決する一手となると考えている。

5. 改善のための努力

上記の教育の方法や戦略は、他の教員の経験則や多少の文献等からの情報を元にしたものである。そのほかに、自身に不足しているのは教育学における学問的な教育方法の検討であると考えている。基本的な学習者への支援方法や学習効果の検討、看護学領域に特有な実習や演習における学習支援の方法等、学問的に探求し、それらを実際の現に還元する必要がある。今後は、これらの分野の文献検討などを行い、それを学科内の教員と共有・検討し、授業内容を改善していくこととする。

6. 今後の目標

短期目標としては先にも挙げた、教育学分野における文献検討である。特に、グループワークなどを主体として授業を構築しているため、グループワークメンバー同士の貢献度を測る、ピア評価について、先行文献を調査することを本年末までの目標とする。

長期目標としては、上記の自身の探求した成果を元に、学科内の授業を一つ主体的に運用していくこととする。